



新町地内の鶴ヶ島日高線

## Q 「鶴ヶ島日高線」の開通について

## A 財政状況等で総合的に判断

杉田 恭之 議員

都市計画道路鶴ヶ島日高線は、埼玉国際医療センターが日高にでき、また、地域の整備や活性化のためにも開通の必要性が高まっている。

**質問一** この道路の計画の経緯と重要性について。

**二** 鶴ヶ島市の進捗状況について。

**三** 日高市の進捗状況について。

**四** 日高市との協議について。

**五** 開通への見通しについて。

**六** 沿線周辺の住区整備計画は。

**答弁一（市長）** 圏央鶴ヶ島インターと周辺道路のネットワーク化を図るため計画された。鉄砲道の

交通量緩和や町屋地区の排水対策のため、重要な路線と考えている。

**二** 延長約3400㍎、整備済み

982㍎。整備率28・9％。

**三** 延長約1420㍎、整備済み

530㍎。整備率37・3％。

**四** 平成3年1月以降、事務担当者以外の正式協議なし。

**五** 整備の優先順位は高いと考えるが、区画整理事業、地区計画区域の整備や雨水排水対策もあり、市の財政状況や日高市の意向等を踏まえ、総合的に判断していく。

**六** 未整備区間周辺は、市街化調整区域であり、街区整備の計画はない。

**質問一** 小中学校間連携推進事業に取り組むきっかけは。

**二** 取り組み状況について。

**三** 成果と課題について。

**四** 今後の在り方について。

**答弁一（教育委員長）** 小中学校の教師間で連携が不足し、指導の途切れがあった。また、児童生徒

では学習面でつまずきを抱えたままでの進級や進学等が課題だった。

児童生徒の個性や能力を伸ばし、生きる力、自立する力を育む効果が期待できる方法として、義務教育9年間を見通した小中一貫教育実施のため立ち上げた。

**二** 中学校と中学校学区内の小学

校を組み合わせて、市内を5ブロックに分けて実施している。今年度各学校に連携の中核となる小学校連携主任を設置した。

**三** 小中学校間の情報伝達がスムーズになり、また、小中学校をつなげた指導計画づくりが進展。大きな課題は、小中連携から一貫教育までを効果的にする通学区域の再編である。

**四** 約3年間ですべての小中学校を連携の段階まで高め、約10年間で幾つかの学校を一貫教育にする。

**◎その他の質問** 中高層住宅における諸課題について

## Q 小中一貫教育について

## A 児童生徒の個性や能力を伸ばす

金泉婦貴子 議員

**質問一** 小中学校間連携推進事業に取り組むきっかけは。

**二** 取り組み状況について。

**三** 成果と課題について。

**四** 今後の在り方について。

**答弁一（教育委員長）** 小中学校の教師間で連携が不足し、指導の途切れがあった。また、児童生徒

では学習面でつまずきを抱えたままでの進級や進学等が課題だった。

児童生徒の個性や能力を伸ばし、生きる力、自立する力を育む効果が期待できる方法として、義務教育9年間を見通した小中一貫教育実施のため立ち上げた。

**二** 中学校と中学校学区内の小学



中学生が小学生に走り方を指導